王子グリーンリソース株式会社「稚内タツナラシ山ウィンドファーム（仮称） 環境影響評価方法書」に対する勧告について

令和6年12月4日
経済産業省
大臣官房
産業保安・安全グループ

本日、電気事業法第46条の8第1項の規定に基づき、稚内タツナラシ山ウィンドファーム（仮称） 環境影響評価方法書について、王子グリーンリソース株式会社に対し環境保全の観点から勧告を行った。勧告の内容は、別紙のとおり。

また、併せて同条第3項の規定に基づき、北海道知事からの意見を勘案するよう、その写しを送付した。

（参考）当該地点の概要

1. 計画概要

場 所：北海道稚内市（タツナラシ山）
原動力の種類：風力（陸上）
出力：最大64,500kW

2. これまでの環境影響評価に係る手続

計画段階環境配慮書受理	令和5年11月15日
環境大臣意見受理	令和6年1月26日
経済産業大臣意見	令和6年2月7日

<環境影響評価方法書>

環境影響評価方法書受理	令和6年6月11日
住民意見の概要等受理	令和6年8月20日
北海道県知事意見受理	令和6年11月15日
経済産業大臣勧告発出	令和6年12月4日

問合せ先：電力安全課 一ノ宮、森江
電話03-3501-1742（直通）

王子グリーンリソース株式会社「稚内タツナラシ山ウインドファーム
(仮称) 環境影響評価方法書」に対する勧告について

環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について

1. 対象事業実施区域の周辺には、既設風力発電所や計画中の風力発電所が存在することから、これらの風力発電事業との累積的な影響が懸念される。このため、他事業者から必要な情報を可能な限り入手した上で、累積的な影響について、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
2. 水質の調査にあたっては、土地改変に伴う濁水や土砂の流出等による影響が懸念されることから、局所集中的な降雨の傾向も十分に踏まえ、適切かつ効果的な調査地点を設定する等、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
3. 対象事業実施区域及びその周辺には住宅が存在していることから、風車の影による影響について、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
4. 動植物の調査地点及び踏査ルートについては、土地改変や樹木の伐採を予定する場所を踏まえて設定を行うこと。
5. 哺乳類の捕獲調査については、十分な精度で調査、予測及び評価ができるよう、調査地域内での環境特性ごとに適正な方法で行うこと。
6. 対象事業実施区域及びその周辺は、鳥類への影響を考慮すべき区域を示した「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」において、チュウヒやオジロワシなどの分布情報及びハクチョウ類などの集団飛来地情報により、注意喚起レベルA1及びA3のメッシュに含まれているほか、海ワシ類の渡りの経路となっている可能性がある。このため、これら希少な鳥類の生息やバードストライク、移動経路の阻害等への影響について、専門家等から助言を得ながら、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
7. 絶滅危惧種であるイトウについては、対象事業実施区域の周辺に位置する河川において生息する可能性があることから、産卵床の目視確認調査を専門家の助言を踏まえ、適切な時期を設定した上で、適切な方法で調査を行うこと。
8. 対象事業実施区域及びその周辺には植生自然度が高いササ群落（Ⅱ）及びエゾイタヤーミズナラ群落等が分布しており、重要な植物群落の生育環境への影響を

回避又は低減するため、現地調査により、現状の植生について十分な調査を行い、その分布状況を把握した上で、事業計画の見直しも含めて検討し、本事業の実施に伴う影響を適切に予測及び評価を行うこと。

9. 生態系の注目種については、採餌環境等の生息状況等を踏まえ、適切に選定を行うこと。

10. 鳥類や哺乳類等が営巣やねぐら等に利用し得る大径木を含む樹林地を把握した上で、本事業の実施に伴う影響について、予測及び評価を行うこと。

11. 景観の調査について、樹木の繁茂期及び落葉期等を考慮する等、適切な調査時期を設定すること。

12. 土地の改変を含む工事の実施に伴う廃棄物及び残土については、その発生の抑制に努めるとともに、発生量に加えて最終処分量、再生利用量及び中間処理量等の把握を通じ、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

(北海道知事からの意見書の写しを添付)